

第 期 世田谷村日記

初期の目的は果たしたと考えられるので日記のスタイルを変える事にする。日記形式のメモをつけるという私にとっては面倒臭い作業が、お陰様で習慣となり、身体にすり込まれた。頼まれて、お金になる原稿は書かなくても日記だけはつけるというのが当たり前になった。しかしながら、当たり前になる、日常的習慣になつてしまつたら、それを多くの人に垂れ流し続けるのは余りにも恥が多い。恥をかいても良い年令ではない。止めると言われて、止めるような、私ではないが、記録を取り続けられる確信を得たので、一度これ迄の日記スタイルを停止して、そしてすぐ続行する事にした。読者諸賢は、何が変わったのか、いぶかしく思われるかも知れぬが、要は、私がホンのチョツと変化したいと思つたに過ぎぬ。そのきっかけを得ただけの話である。

二〇〇四年一月十日

開放系技術という考え方を体系的に展開したいと考えてしばらく実践を続けた。#16の九州浄水の忍田邸までナンバリングしてみたが、これ以上の番号付けは意味が無いのに気が付いたので、記録の方法を少し複雑に展開する。そのきっかけは指扇の家#5の完成である。

開放系技術の考え自体が#1の世田谷村の実践に触発されているのは間違いない。その意味で5番目の試みで、私の方法化への

考え方自体が変化を余儀なくさせられたと言つべきだろう。世田谷村は当然私の初期の仕事、幻庵、開拓者の家、中期の仕事、建部町国際交流館、リアスアーク美術館の系統を集合、再組織したものだ。一言で言えば工業化の再組織（アナザーウェイ）である。それに比較するに指扇の家は、工業化の再組織とは言えぬ要素を余りにも含んでいる。しかも、間違いではない。その矛盾の素は何だろうと考えるに、指扇は自然の再組織というニュアンスが強い。その事はおいおい考えてゆく事にするが、今ここでは開放系技術そのものが「再組織」という時間的概念を含んでいた事に留意したい。

ナンバリングを続ける意味自体を変える為にも「指扇の家」の系列を、自然の再組織としてくりたいと考える。つまり、開放系技術の体系化の過程に異物が入り込んだのである。この異物も同時に右余曲折させながら育成してゆこうと思う。

丹羽君にはホームページのオープンテック・ハウスの編集方法を、この考え方の発生によって、再編集して貰いたい。先ず、「指扇の家」の系列のゲートを配する必要がある。

指扇の家の源は伊豆の長八美術館である。現代つ子ミュージアム、ひろしまハウス・ブノンペン等の仕事を経て今、再組織され始めたのだ。「指扇の家」は森の学校へと展開してゆく計画である。

七時前起床。温泉につかり、ヒゲを当る。露天風呂の庭の枯木が美しい。身支度をして七時半食堂で朝食。

八時森さんが迎えに来てくれて、蓮台寺送つて下さる。道脇の畑の霜柱が印象的だった。九時過ぎ踊り子一〇二号で東京へ。十二時二〇分新宿西口GA杉田、安藤待ち合わせ。指扇の家へ。十六時新宿に戻る。十六時半京王稲田堤星の子愛児園。近藤理事長

と増築その他打ち合わせ。十八時厚生会新年会。厚生会の三保育園の合同新年会。保母さん百人位の圧倒的な女性ばかりの会。女性のエネルギーにたじたじとなる。二十一時過修了。二十二時半世田谷村に戻る。ワールド・フォト・プレス連載の原稿書く。藤井誠二・鈴木隆之の「五百万円ハウス」について。

一月十一日

栃木の御法寺行が中止となったので、朝から「五百万円ハウス」書き続ける。昼前修了。小川さん自宅にFAXで送る。小論だが良いモノが書けた。要約すれば、最近の小住宅ブームの主役の建築家達は居なくなってしまうた伝統的な大工、職人の代行者達ではないかと言う事。藤井誠二・鈴木隆之の五百万円ハウスは藤井の反体制的生活者の市井の隠の困いであり、都市に生まれ始めている新しい空隙をデフォルメしたものだ。夕方、室内連載書くもこれは書き切れず。上海ワークシヨップの件から書き始めたが、どうなるか、解らない。

一月十二日

九時新井薬師駅森川と待ち合わせ。九時半迄駅前コーヒーシヨップで打合せ。四十五分野田さん宅。野田邸のすすめ方その他で相談。当り前の事ではあるが依頼主とは私が直接会って決めなければならぬ事が多い事、忘れてはならない。野田さんには御心配おかけした。最初にお目にかかった時の、チャールズ・レニー・マッキントッシュへの依頼主の想い、今日は今日でウイリアム・モリスへの想いの共有等、依頼主の想いの強さに改めて触れる。私に仕事を任せて下さる様な依頼主は皆それぞれ、何か強い想いを持っている事を忘れてはならない。ケガをしたり、休んでいた

りする時間は実に勿体ない無駄なのだ。十一時過研究室。小ミーティング。森の学校デービッド打合わせ。コンビニ・コンヴァーシヨンの件大野打合わせ。小樽の平埜さんと連絡二四日午後に上京して下さる事になった。楽しみだ。十三時過三ノ輪の藤井さん親子来室。打合わせ。あの場所で住宅と駐車場だけでいいのかなーという話しをする。容積率をフルに使った案を作る必要があるな。十五時過アベル、デービッドに愛児園の増築のサイト伝達。十五時半ホセと二人の中国人留学生と打合わせ。十六時半高山さん来室打合わせ。十九時半修了。高山さんの京都の実家の話しが興味深くて遂々長話しになった。この仕事は流通・職人共に私流を貫いた方が良いかも知れない。依頼主に逆に肩をたたかれた感じ。今日は朝から晩まで打合わせに明け暮れた。余計な事考えるヒマも無かった。東大出版会の仕事今週中にまとめないと。少々あせり始めている。二十三時室内原稿書くも終わらず。